

ゲ ッ ケ イ ジ ュ



同志社びわこリトリートセンターのゲッケイジュ



植樹式

一九二五年一月二九日、同志社創立五十周年記念にクラーク記念館玄関前（向かって右）に植樹された。

植樹に立ち会ったのは、（右上の写真に従って左から順に言えば）海老名弾正（総長）、D・W・ラーネツド、高橋元一郎、中島重、岩井文男の五人である。

植樹者の一人にラーネツドが抜擢されたのは、おりしも来日五十周年、金婚式、喜寿の記念すべき年を迎えたからである。婦米はこれより三年後である。

クラーク記念館修復工事に伴い今回、建物周辺のキンモクセイやタイサンボクと共に同志社びわこリトリートセンターに一時的に移植された（左上の写真）。二〇〇七年には元の場所に復帰するはずである。

本井 康博
（同志社社史資料室）

クラーク記念館時代には周辺の樹木に圧倒されて目立たなかったが、実は二本あった。そのうち一本は移植に耐えないので今回、処分された。移植されたもう一本も根の傷みが激しいが、新しい芽吹きも見られるので水枝に期待したい。

傍の記念碑の文言は「言は神なり」で、ヨハネによる福音書（二・二）から採られた。

このゲッケイジュの植樹は、「雲の柱会」（中島重会長、「義会」（末光信三会長）、「校庭を愛する会」（高橋元一郎会長）の三団体が共同で企画し、経費（七円四十銭）を分担し合った。

この樹と対になる形で玄関に向かって左にニレの樹を新島八重とM・F・デントンが植えたが、枯死したのか、今はない。